

2023 ULTRA PROJECT

BUYBYPRODUCTS プロジェクト | 副産物産店（矢津吉隆・山田毅）・松本尚子・中村紀章・水迫涼太

■プロジェクト内容（予定）

このプロジェクトは、廃棄されてしまうもの、用途を終えたもの、余剰資材など、アートやデザインの現場から出る廃材を“副産物（バイプロダクト）”と位置付け、新たな価値を見出し、アーティスト、建築家、デザイナーと学生が協働して、プロダクトの開発や実験を行なうためのスタジオです。また、それらを循環・流通させる仕組みづくりや空間づくりを行います。廃材活用という既存のイメージにとらわれず、自由な視点で面白く楽しみながら循環型社会について思考し実践していきましょう。

実施期間 2023年5月～2024年2月

活動場所 ウルトラファクトリーほか

活動日 毎週水・木・金曜日の17:00-20:00が活動日

土・日曜日はイベントなどある場合は不定期に活動

■スケジュール

4月10日（月） エントリー〆切（13時まで）

4月14日（金） 書類選考結果をメールにて連絡

5月10日（水） 18:30～ キックオフミーティング

@ウルトラファクトリー

※上記は現時点での予定です。

変更の可能性もありますが、各自スケジュールは空けておいてください。

■単位認定

あり

※通年の活動参加で、プロジェクト演習科目単位（2単位）を申請予定

■募集人数

15名程度

■応募方法

エントリーフォームより必要事項（志望動機/自己PR）を入力し、応募してください。書類選考を経て、キックオフミーティングを行います。

※エントリーフォームへは、特設サイトプロジェクト一覧の末尾にある【ウルトラプロジェクトのエントリーはこちら】から

■お問い合わせ

不明な点や質問は、ウルトラファクトリー オフィス（清水・浦田）まで。

TEL 075-791-8482 Email ultrafactory@office.kyoto-art.ac.jp



BUYBYPRODUCTS

バイバイプロダクツ
プロジェクト



廃材

×

アイデア

新しい視点と循環を生み出す ものづくりプロジェクト

壊れているもの、古くなった道具、使わなくなったもの、使おうと思って結局使わなかった素材、プロトタイプ、制作過程でどうしても出てしまう端材、廃棄処分される作品…… etc. 我々の身の回りには様々な“廃材”があります。

廃棄されてしまうものたちを“副産物”という「新たな素材」として捉えてみる。

この色も素材も大きさも異なる面白い素材たちをつかって、アーティスト、建築家、デザイナーと学生たちが様々な実験を繰り返しながらもう一つの価値の可能性を希求します。

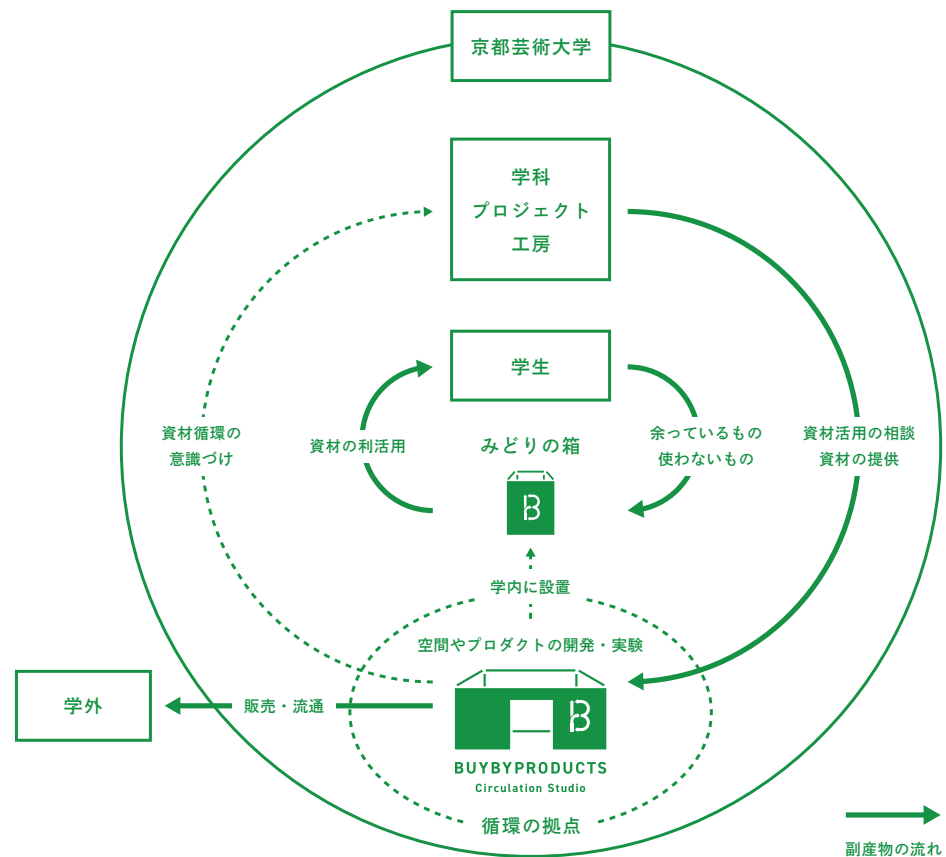
ウルトラファクトリー内に “循環の拠点”をつくる

BUYBYPRODUCTS プロジェクトは、2022年に新設されたウルトラファクトリーのプロジェクトです。

BUYBYは廃材を「副産物」と捉え、新たな価値を付加した商品開発や建築材などの異なる用途に生まれ変わらせることを活動の目的にしています。

芸術大学では各学科からさまざまな副産物が大量に排出されます。現状はそのほとんどを廃棄していますが、誰かにとって必要なものであったり、別のものに生まれ変わらせれば魅力的なモノになったりします。

現在、ウルトラファクトリー 2Fの一部を改修し、大学内のあらゆる廃材やそれを活用するアイデアが集まる循環の拠点「BUYBYPRODUCTS Circulation Studio」をつくっています。2022年度は拠点の整備と、学生が自由に使える資材循環ボックス「みどりの箱」の製作に注力しました。2023年度からはいよいよ学内での資材循環を開始するために、スタジオの運営や広報物の作成、みどりの箱の設置、また副産物を活用したプロダクトの開発・ブランディングなどをおこなっていきます。



↑ BUYBYPRODUCTS の目指す循環システム



↑ 製作途中のBUYBYPRODUCTS Circulation Studio

ディレクター

BUYBYはアーティスト、建築家、デザイナーといったさまざまなジャンルのプロフェッショナルがディレクターとして参画することで、多角的な視点で資材循環について取り組んでいます。

副産物産店

(矢津吉隆+山田毅)

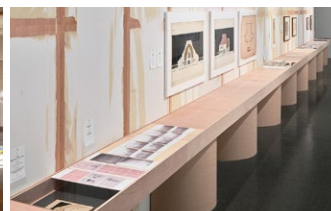
2017年に山田毅（只本屋）と矢津吉隆（kumagusuku）の二人の“店”を表現媒体とする美術家によって結成されたアートユニットでありアートプロジェクト。アーティストのアトリエから生まれる廃材を“副産物”と呼び、それらを活用・流通させるなかで、物の価値を問い直す活動を展開。展覧会やイベント出店、ワークショップのほかに、大学や行政、企業と連携した資材循環の仕組みづくりを行なっている。



松本尚子

(木村松本建築設計事務所)

2003年木村吉成と松本尚子により設立した建築設計を中心とした事務所。まちの環境や歴史をリサーチし、人が長く使い続けるためのふさわしいかたちやシステム=骨格を見つけ出しながら、各地で小さなプロダクトから大きな建物までを手がける。他事務所やデザイナー、アーティストなどとプロジェクトごとのチームで取り組むことも多い。



中村紀章

(中村×建築設計事務所)

中村重陽と中村紀章により設立した建築設計事務所。地域のコンテキストをサンプリングし、設計に取り入れることを心掛けている。場所に関わるヒトやモノを増やし、そのネットワークを繋ぎ直すような設計を目指して活動している。他事務所や他分野、学生など多種多様な人々との協働プロジェクトを行う。



水迫涼汰

2017年京都造形芸術大学（現・京都芸術大学）を卒業し、4年半NOSIGNER株式会社に所属した後独立。京都を中心に、ブランディング・グラフィックデザイン・イラストレーションの分野で活動中。北山林業を背景とした設計プロジェクト「SIBO」、ラッピングデザインプロジェクト「浮々」、地域物産の物販プロジェクト「鯨波」など数多くの自主プロジェクトも主宰する。

